

地域における特色ある取組の事例

1. 市民活動等からはじまった取組
2. 自治会等地域における団体等からはじまった取組
3. 行政等の支援からはじまった取組

1. 市民活動等からはじまった取組

○おんなの目で大阪の街をつくる会(女性のエンパワーメント講座がきっかけで街づくり提言へ)

大阪市立婦人会館の女性社会セミナー(「やさしい都市へのアプローチ 女性のための都市環境講座」)に参加した女性有志により、ボランティアとして人にやさしい大阪の街を創りたいと願って活動を開始した(会員は17名)。

全地下鉄の111駅を高齢者が利用する立場に立って、バリアフリーの視点から調査を行い、大阪市交通局へ「地下鉄検証結果報告書及び改善要請」を提出し、好意的に受け入れられた。また、地下鉄が人にやさしい駅になるための13の提案をまとめた「人にやさしい駅へ 市民からの提案」をとりまとめた(1999年5月)。

現在は、天王寺動物園を都市型動物園にリニューアルし、大阪市民の憩いの場とするための調査活動を展開している。 [参考1]

○(株)ハー・ストーリー:広島市(2人の主婦から登録会員数は7万人の会員へ)

「女性のライフスタイルに合った仕事を造りたい」という思いから起業し、結婚や出産で仕事を辞め、家庭に入った主婦が、在宅で能力を発揮できるシステムの構築を目指し、1990年に創業。「SOHO(在宅ワーカー)」と「モニター(生活者)」という2つの場を用意し、企業の販売促進を代行している。

取引先は中小企業のマーケティング、広報部門を持っていない企業を中心として、企業の宣伝部門のアウトソーシング事業を展開しており、その仕事を通じて多くの在宅ワーカーがホームページの運営、制作、広報、リサーチ、データ集計、宣伝などを請け負うほか、アナログ的な調査隊やモニター、座談会参加、クチコミ隊として活躍している。 [参考2]

■おんなの目で大阪の街を創る会■

会のめざすもの(使命・目標)

大阪市立婦人会館の、女性社会セミナー「やさしい都市へのアプローチ」—女性のための都市環境講座—(1993. 5~1993. 11全20回)の受講生有志で1993年12月に立ち上げました。

高齢者、子ども、障害者はもとより、すべての人にやさしいまちづくりを、利用者の立場に立って、バリアフリーの視点で考え、調査、研究、提案をしています。その時その時に専門家に思いを伝え、共感していただけた方をうねりに巻き込み、質にこだわった成果物を作成し、広く市民に公開しています。活動のスタイルはパートナーシップ型を目指します。

会の活動内容(事業紹介)

大阪市営地下鉄調査 1996. 1~1997. 12

1998年 3月 ビデオ「わたしが動けば街が変わる」—市民活動にエールを送る—制作
(大阪府地域女性活動グループ支援助成金)

1999年 5月 冊子「ひとにやさしい駅へ」—市民グループからの提案—制作
(大阪府箕面市「ゆめ、そだて、コンペ」助成金)

2000年 3月 ビデオ「亀の歩みでいいじゃない」—おんなの目が街を変える—制作
(経済企画庁と請け負い契約を締結)

2001年 ビデオ「私たちにもできた市民活動」楽しい動物園へ・6人の女の挑戦、撮影協力
大阪市天王寺動物園調査 2000. 12~

講師 NPO・ボランティア関係、行政、学校、PTA等

政策提言活動 ・大阪交通労働組合市営交通モニター(1998. 4~)

- ・ドーンセンター(大阪府立女性総合センター)運営推進委員(1998. 12~2000. 12)
- ・公営交通研究所理事(1999. 8~)
- ・神戸市交通事業審議会委員(1999. 10~)
- ・滋賀県ユニバーサルデザイン歩行空間ネットワーク構想検討懇話会委員(2001. 9~2002. 3)
- ・大阪市総合生涯学習センター開館に向けたNPO懇話会委員(2002. 3)
- ・彦根市男女共同参画審議会委員(2002. 6~2004. 3)
- ・大阪市交通局バリアフリー化委員会モニター部会部会員(2002. 12~)

受賞

- ・OSAKA NPOアワード'97グランプリ受賞(1997年)
- ・「きらめき賞」(大阪市)受賞(1998年)
- ・「2001年ボランティア国際年アマチュア映像制作コンペ」(主催 経済企画庁)において、ビデオ「亀の歩みでいいじゃない」—おんなの目が街を変える—経済企画庁長官賞受賞(2000年)
- ・第27回産経市民の社会福祉賞受賞(2001年)
- ・大阪府知事賞受賞(2002年)

会の魅力(ウリ)、今後のビジョン

- ・良好な人間関係
- ・上等な専門家のサポーターがいっぱい!
- ・身近にころがっている“あれ?” “どうして?” を、みんなの問題として捉え、『利用の専門家』として、調査、研究し、提案していくこと

会へのアクセス方法

- ・活動ペース 一応月2回木曜日
- ・連絡先 大阪市都島区友浜町1-5-8-1306 〒534-0016 小山方
- ・活動拠点 クレオ大阪中央、ドーンセンター(大阪府女性総合センター)、地域の集会所
- ・電話&FAX 06-6927-9300

目指せやさしい駅



ホームと電車の乗降口との高低差を調べる「おんなの目で大阪の街を創る会」のメンバーたち（大阪市中央区の地下鉄森ノ宮駅）

身障者・高齢者に思いやり

新システム続々開発中

にゆいすすケツチ

身障者や高齢者などが使いやすい、やさしい駅を目指す動きが各地で進んでいる。

鉄道総合技術研究所（東京・国分寺市）は、視覚障害者のために「誘導案内システム」を開発した。電波を出すつえを持つ人が、点字ブロックの上を歩くと地中に埋めた装置が反応し、携帯型パソコンを通して音声が出る。「ここから二十段の階段です」「ここは三番ホームです」といった具合だ。来月、試作品を公開する。

運輸省の外郭団体「交通アメニティ推進機構」（東京・千代田区）は、エレベーターメーカーなどと協力して、直角方向に二つのドアがついたエレベーターを開発した。車いすの人が前に進むだけで乗り降りできる構造になっている。

鉄道会社が取り組むケースでは、阪急電鉄（大阪市北区）が「駅長室」の看板を「サービスセンター」に変えてソフトウェアを打ち出した。さらにきめの細かいサービスをねらい、女性スタッフも配置した。

利用者の視点から大阪市営地下鉄の駅施設を検証するのはボランティア団体「おんなの目で大阪の街を創る会」。点字ブロックの位置や、券売機の高さなどを細かくチェックし、その結果を各駅と同市交通局に提出している。調査終了後、どこまで改善されたかも一度調べるといふ。

普段、何げなく通り過ぎてしまふ駅。時には、ハンディを持つ人の目で施設を見てはどうだろうか。

（写真部 矢後衛）

’97.8.26 日本経済新聞社（夕刊）



ホームに腹ばいになってシャッターを切る写真部の記者。空になったフィルムケースは両手からあふれるほどになった。そして、この1枚。

どんな人材が
求められているの？

どうしたら
仕事を獲得できるの？

在宅ワーク発注会社

大研究

在宅ワークを発注している「怪しくない」会社やグループは一般に登録料はいりません。今回は、代表的な登録会社・グループについて、その特色や仕事内容、仕事獲得の秘訣などを特集します。

取材・文＝上田光子 撮影＝田中康弘



代表取締役
日野佳恵子さん (41歳)
タウン誌編集長、広告代理店勤務などを経験したあと、女性だけの企画会社ハー・ストーリーを起す。当時1歳だった子ども、今では中学生になった。

ハー・ストーリー

主婦のクチコミが仕事になる 「何かをしたい」 主婦7万人が集まった

(株)ハー・ストーリー

主婦が始めたユニークな会社として、12年の実績

登録者数 女性のみ7万人

設立 1990年

<http://www.herstory.co.jp/>

所在地 広島県広島市

業務内容 販売促進、商品企画、デザイン制作、ホームページ制作・運営など

仕事情報 メールで配信

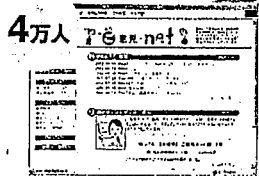
ハー・ストーリー
ハー・ストーリーのトップページ。ここからモニター用、在宅ワーク用のふたつのコーナーに分かれる。登録はどちらか一方でも両方でもいい。



人気の仕事 Best 10

- 1 クチコミシッター (次ページ)
- 2 プロモーション (検索ページへの登録など)
- 3 市場調査 (アンケート)
- 4 ホームページ制作
- 5 入力
- 6 テープ起こし
- 7 メルマガライター
- 8 印刷物ライター
- 9 ホームページ管理
- 10 DM封入、ポスティング

ハー・ストーリーの本業は、販売促進。どうやったら商品が売れるかをメーカーなどの依頼を受けて考えていく会社です。そのためモニター会員に意見を聞く場合もあれば、クチコミで商品を広めてもらうこともあります。PR用のホームページやメルマガのために制作者や文章を書く人も募集します。取り扱うのは主婦の感性が求められる女性・家庭向けの商品がほとんどです。



4万人 Peenat
(モニター)
<http://www.herstory.co.jp/goiken/>

モニター登録すると、アンケートに答えてポイントを貯めたり、クチコミシッターとして活動することができる。2000ポイント以上貯まると換金が可能(1ポイント=1円)。中には1年で1万8000ポイント以上貯めた人も。

- 登録条件
- 無料
 - 女性のみ
 - 不要
 - 限定なし

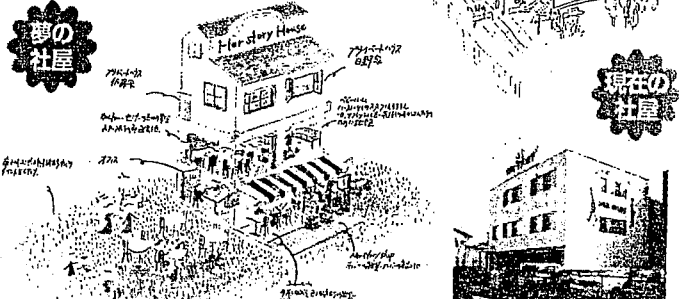


3万人 WAHNET
(在宅ワーク)
<http://www.herstory.co.jp/wahm/>

パソコンを使った在宅ワークをしたい人は、ワムネットに登録してみよう。ただし今現在は、入力の仕事はほとんどない。

- 登録条件
- 無料
 - 男女不問
 - 未経験でも登録可
 - 登録時にこれまでの職務経歴、持っている資格、在宅ワークの経験と実績などを申告。

「夢の社屋」はイラストレーターでもある副社長の佐藤さんが描いた「夢のHer Story House」。3階建てのビルにオフィスと雑貨店、オープンカフェ、そして日野さんと佐藤さんの自宅も。「いつかこんな会社を作ろう」を合い言葉に、つらいことも乗り越えてきた。そして今年ついにハー・ストーリーのビルが完成！夢に一步近づいた。



ハー・ストーリーのクチコミ活動

クチコミで取り上げるかどうかは、ご意見ネットで事前にアンケートなどを行い、本当に人に勧めたいかなるようなものだけを選定。

会社、ネットショップなど



ハー・ストーリー

依頼

募集

インターネットでのクチコミ活動

- 自分のホームページ
- 主宰するメーリングリスト
- メールマガジン
- 友人・知人にメール

地域でのクチコミ活動

- サークルの仲間
- 友人・知人
- ご近所の人
- PTAや幼稚園の仲間
- パート仲間

石川さん、TWR無洗米をクチコミする!

取りまとめ費 5000円+ 回収3000円/枚

無洗米が精米されるようすを工場で見学。社会科見学みたいで楽しくて無洗米のことも勉強できて、お金までもらっている? と考えた。担当者の方の熱意も伝わってきて、すっかり無洗米ファンに。



工場見学

1日 5000円

雑誌やテレビ局に投書

「私のおすすめ」として投稿する。自分の言葉でよさを伝えるのがポイント。

試食品を配り、アンケートを回収

10人の友だちに無洗米を6合ずつ食べてもらって、アンケートに答えてもらう。「お米を6合差し上げるわけで、どこでも喜んで協力してもらえた!」

お米売り場のPOPに協力

スーパー、お米屋さんなどの無洗米売り場に置かれるPOPに、無洗米ファンとして登場。石川さんの写真と無洗米を食べたの感想が店頭に並ぶ。

6通で 1500円



飯田さんの仕事の歩み

- 2000.1 ハー・ストーリーに登録、メルマガライターの仕事をゲット
 - ホームページ制作がしたくて掲示板応募を重ねるが全滅。
 - メルマガというしよに説明用ホームページも作らせてもらう。報酬は1000円増えただけだったが自信につながる。
- 2000.4 初めてハー・ストーリーから本格的にホームページ制作の仕事を受注
 - ボリュームが多くて途中でギブアップ。でもそこでクビにならず「猛反省しましたが、すごく感謝しています」。
- 2000.5 他社の仕事も受注
- 2002.4 直接契約していた会社との間にトラブル発生
 - 最初は制作費+成功報酬(制作したホームページでの売り上げの数%が収入になる)だったはずの話が、完成後に成功報酬だけに。数十万の制作費がまったくもらえず、更新を断ると、損害賠償を要求される。結果的に損害賠償はなかったが制作費は未払いのまま。ハー・ストーリーのような会社が間に入ってくれるありがたさを実感した。

飯田美登里さん (33歳) 千葉県柏市在住。在宅ワーク歴は2年10ヶ月。ワムネットのホームページも飯田さんが制作している。



「何かをしたい気持ちにはあっても、自分が何をやりたいのかわかっていませんでした」。そんな飯田さんは、まずメルマガライターの仕事に応募。何度か仕事をするうち、ホームページ制作をやってみたくて思うようになりました。「ネットの求人掲示板に応募しても、実績がないので全滅でした。でもハー・ストーリーさんが経験のない私に機会をくれたんです。いつも私の力よりちよっとだけ上の仕事をくださるので、それがスキルアップにつながっています。私を育ててくれたハー・ストーリーに感謝しています」。

- 契約書、発注書などがきちんとあって安心できる
- 打ち合わせは全部ハー・ストーリーがやってくれる
- 指示の出し方がしっかりしていて、作業がしやすい
- 仕事量が過剰にならないよう、調整してくれる

ホームページ制作

経験もスキルもないところからスタート。今ではHP制作者に

クチコミシーダー

自分のいいと思ったものを、人に紹介する仕事。おもしろくてやりがいもあるって二重丸!!



石川里美さん (42歳) 埼玉県越谷市在住。4つのパートを掛け持ちし、親子で習い事が週に14回という、パワフルなママ。「食は生活の基本」と、忙しくても食事作りの手は抜かない。

石川さんはネットでたくさんの方の会社にモニター登録をするうち、ハー・ストーリーと出会いました。でもハー・ストーリーのモニターは一味違っていたのです。石川さんの引き受けた無洗米の仕事の第一段階は工場見学。無洗米のことを教わり、試食して味と栄養価に満足した石川さんは、心から人に勧める気持ちになりました。これこそハー・ストーリーの言葉でいうクチコミ・シーダー(クチコミで商品のよさを伝える人)。日ごろのおつきあいや生活感覚が物を言う、主婦ならではの仕事です。

2. 自治会等地域における団体等からはじまった取組

○東京都立川市 大山自治会における取組(女性自治会長の活躍)

都営アパートに引っ越してきて1年後、欠席した団地の会合で、なり手のいなかった棟の自治会長に3人の子どもの母親で主婦の佐藤良子さんが選ばれる。古くから住むお年寄りに運営方法を教わり、自治会役員から子ども会役員までなんでも引き受ける。

その後、再び団地全体の自治会(会員は約3,000人)の会長に選ばれた時には、新しく入居した若い世代から古く住む高齢者までが暮らす幅広い構成となっており、「調和させるためには何が求められているか」を考え、「頼りにされる自治会づくり」を行うため、お年寄りが多く暮らす特徴を生かし、若い夫婦の子育ての悩みや一時保育を受け付けるボランティア組織「大山ママさんサポートセンター」を設立。自治会の主体的取組から始まった活動から、行政機関とも連携し、一人暮らしのお年寄りのネットワークづくりも始めた。

団地内の駐車場の管理を都から請け負う高齢者の協力員を組織化するなど、他団地にはないユニークな取組みも多い。 [参考1]

○茨城県日立市塙山学区住みよいまちをつくる会

(地域における住民の主体的取組。女性の元気パワー)

日立市の行政指導によってはじまった小学校区毎のコミュニティ活動から始まり、1980年に、塙山住みよいまちをつくる会が発足。住民主体で「塙山コミュニティプラン」を策定。現在は第2次計画「さんさん計画」を策定し、組織としては、福祉局、防災局、地球局、未来局、創夢局、人材部等を置き、様々な企画を行い、塙山学区の約8000人の住民が住んでよかったと思えるような実践的な住民の手作りのまちづくりを進めている。また、組織として人材発掘と男女共同参画推進の活動を続けており、現在も女性会長を筆頭に、部局長の半数が女性。

プランとしては、子ども、環境、健康などの7つのテーマと88の具体的事業を立案し、社会福祉協議会、女性会、子ども会、PTA、スポーツ少年団等諸団体や小学校、幼稚園、保育所とも連携し事業を行っている。 [参考2]

大山自治会長 佐藤良子さん

はたらく女 図鑑

☆35☆



安心して暮らせる場を

始まりはくじ引きだった。立川市の都営上砂町1丁目アパート(通称・大山団地)に引越してきて1年後の77年。団地の会合に委任状を出し欠席したが、帰ってきたら「当たったぞ」。なり手のい

なかつた棟の自治会長に選ばれてしまった。それが現在、大山団地全体を束ねる大山自治会会長、佐藤良子さん(60)のボランティア人生のスタートとなった。

棟の自治会長になるまで

は、幼い子供3人を抱える普通の主婦。会長は何を、どう行おうべきなのか、全く分からない。それまで住んでいたのは市内の賃貸一戸建て住宅。戸惑う佐藤さんに、古くから

住むお年寄りが、運営方法を丁寧に教えてくれた。「団地は人間関係が大変と聞いていたけれど、自治会活動を通じていろいろなたのつながりの大切さを感じ、多くのことを勉強できた」と振り返り

はまよまった収入がゼロ。その後は、自治会役員から子供会役員まで、何でも引き受けた。子供3人が通った小中高のPTAにはすべて参加した。PTA活動は「面倒くさい」と嫌がる人が多かったが、「子供のためだけに、自分で楽しんでやることを心掛けた」。

88年、夫が勤務先の会社をリストラされ、その後3年間のお年寄りのネットワークづくりも始めた。「引越してきて、暮らしてきて、良かったなあと思ってもらえる自治会でない」と意味がなす。

でも「へじけられない」と頑張ったのは、ボランティア活動で培った底力があつたから。夫が独立し電子製品部品の製造会社を設立した際は、逆に活動で知り合った人の紹介で工場の敷地を貸してもらうなど、「人とつながり」は大いに生かされた。

99年に計24棟(1220世帯、3000人)の大山団地全体の大山自治会の会長に選ばれた。平屋建ての大山団地は老朽化により中・高層に建て替えられ、新しく入居した若い世代から古くから住む高齢者までが暮らす幅広い構成

「誰もが安心して暮らしたい」とも皆が気軽に声を掛けられるような団地にした。自治会は、そのための『よろず相談所』なんです。

行動力たっぷり自分の街を誰よりも愛する自治会長。そんなリーダーを仲間が親しみを込めて「おっかあ」と呼ぶ。

文・写真 佐藤敬一



楽しく子育てしましょう お気軽にご相談下さい



大山MSC

(ママさんサポートセンター)

代表TEL 535-6017 (佐藤)

537-4427 (佐々木)

大山MSC

- * 家庭における子育て支援
- * 児童虐待防止
- * 高年齢者との対話集会
- * 子育てで悩むお母さんへの相談
- * 講座や研修会
- * 子育て支援情報と収集の提供



安心できるね

- * 一時保育します
- PTA・子ども会
- 地域の行事に
- 積極的に参加
- しましょう!

相談の秘密は守ります
お気軽にご相談ください
一人で悩まず、仲間作り
をしよう!
誰かに話せばらくになる
ボランティアなので相談無料



育児のしかたがわからない 子育てで困ったときに

* 経験者が沢山いるよ
お父さん、お母さん
ちょっとみんなの手を
かりよう!

- ・ 幼児
- 遊ばせ方がわからない
- ・ 友達がほしい
- ・ ほめ方、しかり方がわからない

子どもひとりひとりには すばらしい

「育つ力」応援するよ
関係機関とのネットワーク作りします

- ・ 児童相談所
- ・ 民生委員
- ・ 児童委員
- ・ 教育相談所 他



一人暮らしの

おじいちゃん
おばあちゃん
近くにいます

- ・ お話したり!
- 仲間づくりしたり!
- 一日、一日楽しくすごしましょう
- ・ お買物のお手伝いします
- ・ お気軽にご相談ください

三宅島避難者支援

コミュニティアクションプラン
塙山第2次さんさん計画
まちづくり7つのテーマと88事業



日本一元気なまちづくり
**いきいき・はつちつ
はなやま**
●健康のまちづくり ●体力づくり ●生きがいづくり



地球にやさしいまちづくり
**ラブ・地球
はなやま**
●地球環境の保全 ●リサイクルはなやま



災害に強い安全なまちづくり
**安全・安心
はなやま**
●防災 ●防犯 ●交通安全 ●生活環境の改善

ハナトピア



さわやかな環境とごみゼロのまちづくり
**ピカ・美化
はなやま**
●クリーンはなやま ●花と緑 ●景観づくり



ふれあい、支え合うまちづくり
**支え・愛
はなやま**
●支え合う事業 ●ふれ合える事業



仲良く楽しいまちづくり
**わくわく・ワイワイ
はなやま**
●たのしい塙山っ子づくり ●生涯楽集 ●出会いづくり



明日へつなぐまちづくり
**来來・キラリ
はなやま**
●地域づくり ●人づくり ●情報の発信
●新コミセン等の建設 ●行政との新たなパートナーシップ

■住みよき実感の理想的な塙山(ハナトピア)をめざして!

塙山第2次さんさん計画(コミュニティ・アクションプラン)は、塙山コミュニティがこれから5~10年後を見据えて、達成したいまちづくりの目標や具体的事業をまとめたものです。

- めざすべきまちづくりのテーマは、
- ①いきいき・はつちつ(日本一元気なまち)
 - ②ラブ・地球(地球にやさしいまち)
 - ③安全・安心(災害に強い安全なまち)
 - ④ピカ・美化(さわやかな環境とごみゼロのまち)
 - ⑤支え・愛(ふれあい、支え合うまち)
 - ⑥わくわく・ワイワイ(仲良く楽しいまち)
 - ⑦未来・キラリ(明日へつなぐまち)
- の7つです。

塙山学区の約8000人の住民が、この塙山に住んでいて良かった、この塙山のまちで死にたいと思えるような、理想的な塙山のまちづくりを実現するための実践的な住民の手づくりによる計画です。

みんなで、その実現のために、知恵と汗とお金さえも出し合いながら、仲良く、楽しく、お互いに支え合いながら、まちづくりを進めていきたいと思えます。

■第2次さんさん計画の策定経過

この塙山第2次さんさん計画(コミュニティ・アクションプラン)策定は、1999年6月に全世代対象に実施した住民アンケートの調査結果をベースに、一人暮らしのお年寄りの昼食会「エコーサロン」

におけるヒヤリング調査、ヤングママ子育て楽集会自主グループ対象のアンケート、塙山小5年生、塙山学区から通学している大久保中、河原子中、台原中三校の中学2年生対象のアンケート、子ども会育成連合会にご協力をお願いした高校2年生対象



のアンケートなどの各種意識調査を実施し、今までの事業への評価と、これから取り組むべき事業への要望を探ることから始まりました。

それらの調査結果と塙山学区住みよきまちをつくる会の各専門部の事業評価や今後の希望事業調査も踏まえながら、1999年11月からスタートした「さんさん計画策定委員会」で協議調整をはかり、2000年1月23日の「住民説明懇談会」、1月2月の「幹事会」などにはかり、案をまとめた。さらに、かわら版(2000年2月20日付)に「さんさん計画(案)」を掲載し、住民への紙面提案を行い、広く、住民から意見を聞きながら、第8回さんさん計画策定委員会が最終的に調整取りまとめたものを、3月14日開催の拡大企画会議において、塙山第2次さんさん計画として決定しました。

その後、各専門局や地区との調整をはかりながら、今回のパンフレット作成となったものです。

■第1次プランの策定とその成果

第1次プラン「塙山コミュニティプラン」は1989年(平成元年)3月に策定しました。

- 同プランの柱は
- きれいな塙山づくり
 - 健康で安心して暮らせる塙山づくり
 - たのしい塙山っ子づくりの3つ。

平成元年度から実践に入り、花いっぱい塙山、支えあいシステム「エコークラブ」による一人暮らしお年寄りへの支援など、計画通りの成果をあげることができました。



しかし、第1次「塙山コミュニティプラン」は理念的にまとめたもので、具体的事業計画の必要性が早くからさざやかされていました。

そこで1993年(平成5年)1月に「飯山市長を囲む塙山サロン」を行った際、市長から「日立市のコミュニティのあり



方」を提言してほしい」と要望されたことと、市コミュニティ推進協議会の予算がついたこともあって、急ぎよ、第1次ブ

ランの改定版(第1次さんさん計画)としてつくることになりました。

■第1次さんさん計画の策定

1993年(平成5年)9月、企画局を中心にアクションプラン策定委員会を発足。全世代アンケート、小中学生アンケート、ヒヤリング調査、地区懇談会などを実施しました。集計は委員と事務局がパソコンの講習を受けながらデータの入出力、小中高生アンケートや自由記述意見は



手集計で行ない、年末ぎりぎり粗集計をまとめた。続いて正月早々から地区懇談会、調査結果の分析、アクションプランの柱立て、具体的事業の立案などに、延べ20回以上の検討会を行ない、1



994年(平成6年)3月、「塙山さんさん計画」が策定されました。

■塙山第2次さんさん計画(コミュニティ・アクションプラン)策定委員会

(2000年3月現在)

- 委員長 伊藤 智哉/金沢町・副会長兼未来局長
- 副委員長 照山 正雄/金沢町・創夢部長
- 委員 古川 俊/大久保町・会長
- 原 謙臣/塙山町・自治会長
- 丹井 泰雅/金沢町・PTA
- 西村 美江/塙山町・あんしん局長
- 村田 勉/塙山町・健康部長
- 諸岡 泰男/塙山町・防災局長
- 松吉 宏/塙山町・リサイクル部長
- 鈴木 誠/千石町・百年塾部長
- 関口 忠/塙山町・写真部長
- 石井美智子/金沢町・事務局次長
- 鈴木 祐一/金沢町・創夢部
- 上岡 剛/塙山町・創夢部
- 早川 紀子/塙山町・人財部
- 古川 義徳/塙山町・人財部
- 斎藤 謙一/金沢町・人財部
- 志田 頼子/千石町・元PTA
- 橋本 芳夫/大久保町・地区長
- 諸沢 和子/金沢町・女性会
- 信子/金沢町・女性会長
- 斎藤 幸造/金沢町・サポート部長
- 小松 修子/塙山町・地球局長
- 龍口 恵子/金沢町・楽集局長
- 渡邊由美子/塙山町・情報局長
- 石井 信潔/金沢町・地区創生局長
- 大窪 修二/大久保町・創夢部
- 武藤 安子/塙山町・創夢部
- 植杉 則子/金沢町・人財部
- 渡辺 定志/塙山町・人財部
- 久保 俊彦/塙山町・人財部

[参考2]

塙山学区住みよきまちをつくる会のあゆみ

- 1980年(昭和55年) 6月 塙山学区住みよきまちをつくる会が発足
- 1981年(昭和56年) 3月 塙山ニュース(次号よりかわら版と改称)創刊。翌月より毎月発行を始める。
- 1982年(昭和57年) 3月 第1回ゴチャツペ市(フリーマーケット)
- 7月 第1回さんさん祭り
- 1984年(昭和58年) 5月 塙山地域センター(現塙山コミュニティセンター)がオープン。
- 1989年(昭和63年) 3月 塙山コミュニティプラン策定
- 1990年(平成2年) 3月 会発足10周年記念祭
- 11月 平成2年度生活生活会諸運動関東甲信越大会を塙山で開催。
- 1994年(平成6年) 3月 塙山さんさん計画策定。
- 10月 ふれあい配食サービス始まる。
- 11月 茨城県より功績団体として表彰される。コミュニティ基金制度開始。
- 1995年(平成7年) 12月 はなやま創生事業スタート
- 1996年(平成8年) 4月 E.M.ゴミ処理器購入補助
- 1997年(平成9年) 1月 子どもが遊べる修理公園を考えるワークショップ。ハナトピアマップ完成。
- 7月 塙山のホームページ開設
- 10月 茨城県グリーンリボン賞受賞
- 11月 ふるさとづくり大賞内閣総理大臣賞受賞 地方自治法施行50周年記念特別表彰自治大賞受賞
- 1998年(平成10年) 6月 リーダー研修会NPO法を学ぶ
- 11月 豊かなふるさとづくり全国フォーラム 歓迎前夜祭
- 1999年(平成11年) 5月 塙山学区社会福祉協議会発足
- 7月 はなやま児童クラブ開設。
- 12月 修理公園再整備作業(グラウンドワーク)
- 2000年(平成12年) 1月 はなやま生き生き60代会「リスタートはなやま」発足
- 3月 創立20周年を祝う会
- 3月 コミュニティアクションプラン「第2次さんさん計画」策定



日本一元気なまちづくり いきいき・はつらつ はなやま

健康で長生きできる、日本一元気な福山のまちづくりを目指して、子どもたちからお年寄りまで、そして、ハンディをもった方々と、みんな健康に対する意識を高め、さまざまな体力づくりや生きがいづくりなどを進めます。

●健康のまちづくり

健康プラン策定・健康講演会・健康フェア・食生活改善・健康かわら版発行

●体力づくり

ウォーキングの会・健康診断率アップ運動・みんなの体操普及

●生きがいづくり

趣味の会・無農薬野菜づくり・
楽しいボランティア紹介・家庭菜園づくり



地球にやさしいまちづくり ラブ・地球 はなやま

地球にやさしい地域づくり、人づくりを目指して、日常的なリサイクル思想の啓蒙、啓発とリサイクルアップの各種事業の取組みや地球環境意識の高揚のための事業を進めます。

●地球環境の保全

地球環境の汚染・破壊防止
活動への先駆的取組み

●リサイクルはなやま

再生資源分別回収の徹底



災害に強い安全なまちづくり 安全・安心 はなやま

災害に強く、住民の生活環境が整備された安全なまちでまた、犯罪がなく、安心して暮らせるまちづくりも目指して防災や防犯、交通安全や暮らしやすいまちづくりのための生活環境の改善など、各種事業を進めます。

●防災

防災意識の高揚・防災組織の機能充実・防災会議・
防災訓練・防災マップ・常備資機材の充実

●防犯

防犯灯の設置促進・犯罪の防止・放屁自転車のないまち

●交通安全

生活道路の改良・違法看板のないまち・危険箇所などの改善

●生活環境の改善

路上駐車・追放・交通マナーアップ作戦・道路の安全確保・
交通安全施設の（カーブミラー、ガードレール、
横断歩道など）整備

明日へつなぐまちづくり 未来・キラリ はなやま

福山が、現在から未来に向かって、いつまでも住みよさが実感できるまちであり続けることができるように、行政との新たなパートナーシップをもちながら、地域づくりや人づくりを重要課題としてとらえ、学区住民や世界への情報発信を充実させると共に、少子高齢社会や地域福祉事業へ対応できるための複合福祉型の新コミュニティセンターの建設実現も目指します。

●地域づくり

地区組織（自治会等）の整備・地区懇談会・はなやま暮らしのガイド作成・
コミュニティ推進員の集い・学区内事業所等との連携・投票率アップの啓蒙

●人づくり

リーダー研修会・まちづくりサポーター増強・地域活動へのきっかけ
づくりイベント（一人一役（あなたの出番ですよ！）運動

●情報の発信

月刊かわら版発行・広報物配送・ホームページの充実・
記録写真・スライド作成

●新コミセン等の建設

新コミセンの具体化計画作成・さんさん基金の拡充

●行政との新たなパートナーシップ

緊密な情報交換と有機的な連携

コミュニティアクションプラン 福山 第2次 さんさん計画

まちづくり
7つのテーマと
88事業



●たくましい福山っ子づくり

子どもの社会力をつける各種事業・
「総合的な学習」への支援

●生涯楽集

ヤングママ子育て楽集会・おとこ塾・手話教室・パソコン教室・
茨城百景を訪ねる・趣味の教室・歴史講座

●出会いづくり

さんさん祭り・早朝ソフトボールリーグ戦・ウォークラリー・
しめ飾りづくり・サンタ宅配便・ゴチャッペ市・はなやま朝市

仲間く楽しいまちづくり わくわく・ワイワイ はなやま

住民が、いつでも、どこでも、だれとでも、仲間く楽しい福山のまちづくりを目指して、学校や関係団体との連携の中から健全でたくましい福山っ子づくりや子育て支援をはじめ、子どもからお年寄りまで、また、女性や男性もだれでも気軽に参加できる楽しい生涯楽集事業と各種の交流イベントを実施します。

さわやかな環境とごみゼロのまちづくり ピカ・美化 はなやま

ごみゼロと花と緑がいっぱいのまちづくりを、
住民みんなで進めていきます。
また、道路や街角に彫刻を配置したり、公園をはじめ、
シンボルゾーンやサインの整備も進めます。



●クリーンはなやま

ペット飼いのマナーアップ・一斉清掃・
クリーン福山デー・ごみマナーアップ作戦

●花と緑

花と緑のまちかどづくり・花の里親制度・
花の即売会・地域内花ツアー

●景観づくり

彫刻のあるまちづくり・修理公園の整備・
シンボルコーナー・案内標識の整備

●支え合う事業

見守り体制の確立・暮らしのサポート
「あんしん」発足・ふれあい配食サービス・
ふくしかわら版・ふくし協力員の増員・
子どもふくし員の増員・児童クラブの拡充

●ふれ合える事業

エコサロン・木曜サロン・
新60代のつどい・小さなふれあい展・
敬老祭

ふれあい、支え合うまちづくり 支え・愛 はなやま

住民相互にふれあい、支え合うことが自然にできるような豊かな人間関係の地域福祉社会の実現を目指し、お年寄りやハンディをもった方々にやさしいまちづくりのために、各種地域福祉事業を継続的に進めます。

3. 行政等の支援からはじまった取組

○横浜市女性アドバイザー(行政の支援事業から政策提言へ)

女性の目で見たまちづくり提案を募集し、まちづくりアドバイザーとして市民に委嘱を行い、提案をしてもらっている。

第1期まちづくりアドバイザーの活動(1990～91年)では、「女性の目で見たまちづくり提案」を市民より公募し、188名を任期2年の「まちづくりアドバイザー」として選定。まちづくりアドバイザーより構成される研究会や分科会により出された提案や提言を各担当部局に配り、予算化できるかどうかの検討を行い、具体化。

また、第2期まちづくりアドバイザーの活動(1992年～)では、行政部局内で、次年度以降の事業等の企画・立案を行うに当たって女性市民のアドバイスがほしい部局を募り、所管部局がテーマを決定して、委嘱した女性アドバイザーから成るグループに提示。そのテーマに従って活動を行い、意見交換会、施設見学、担当局へのヒアリング活動等を行った後提案集をとりまとめ、担当部局に配布し、予算をつけ事業化したり施策の内部に反映する。そのように施策の内容に反映されるものは6～7割に昇る。

具体例としては、「障害者の出品によるショップの設置」、「一時的保育の定員増」、「街路樹の保存」、「美しい河川の保存と災害時の河川水の利用」等。〔参考1〕

○愛知県春日井市

(行政の支援がきっかけとなり、女性が主体的に取り組んだ地域づくり)

1997年、阪神・淡路大震災等の反省を踏まえ、当時建設省において、まちづくりに女性の視点を活かし、安全で安心して暮らせるまちづくりを進めるため、「安心・安全まちづくりフォーラム」が全国的に展開された。その後、自主的に女性が中心となって発展していった事例として、「春日井安全・安心まちづくり女性フォーラム実行委員会」が組織され、モデル地区での安全マップづくりを皮切りに、2年かけて市内37小学校区で防犯、防災、交通事故防止に関する安全マップづくりを実施し、その結果を5冊のイラストマップ集にまとめて市に提出。市では、それをもとに小学校区ごとの「安全・安心マップ」を作り、市民に配布。〔参考2〕

○石川県羽咋市(女性起業家支援)

「羽咋市男女が共に輝く21世紀のまちづくり条例」において、「21世紀の活力あるまちづくりを進めるためには男女の対等なパートナーシップを実現することが必要」(前文)、「営利非営利を問わず、新しい事業や活動が活発におこされ」(第3条)というように女性の起業について言及し、男女共同参画をまちおこしの避けて通れない課題として位置付けた。

具体的には、市街地の空き店舗を借り上げて、意欲ある女性や女性グループに斡旋するため、市街地の空き店舗に出店すべき仕事の内容やアイデアを全国公募し、安い家賃で2～3ヶ月間店を出し、採算状況をモニターしていく「おためしショップ」や「女性のためのインターネットカフェ」などを優秀アイデアとして選定し、これらのアイデアを参考にしつつ、実際に起業する希望者を募集した。

応募者に対しては、空き店舗を活用した事業を実施していく上で必要な家賃等の補助を行い、空き店舗の解消等による商店街の活性化を図ることとしている。

[参考3]

○熊本県(県民の自発的活動を支援する行政の取組)

男女共同参画センターをはじめ、NPO・ボランティア協同センター、しごと支援センター、生涯学習推進センターを備えた複合施設「くまもと県民交流館パレア」を整備し、男女共同参画社会づくりに関する活動等県民の自発的で主体的な活動に対する支援を行うため、各種研修・講座や相談業務等を実施している。

また、上記活動に資する様々な関連情報をワンストップ化し、効率的な情報提供を行っている。

[参考4]

平成14年度「女性の目で見たまちづくりアドバイザー」募集

横浜市では、男女がともに社会のあらゆる分野に参画し、いきいきと暮らせる社会づくりをすすめています。女性の視点での街づくりと女性の社会参画へのきっかけづくりとして「女性の目で見たまちづくりアドバイザー」を募集し、テーマ別に応募いただいた方でグループを作り、検討し、提案をまとめていただきます。

《募集要項》

- 1 応募資格：女性（経験者も可）
- 2 募集人数：30人程度
- 3 テーマ

A 我が家の近くにはこんな公園が欲しい
 少子・高齢化が進む中、公園は「子どもたちの遊び場」だけではなくなってきました。高齢者が多い地域、子どもが多い地域、住む人によって求められる公園はさまざまです。地域の特性を活かし、住む人たちが楽しく利用できる公園とはどんな公園が検討していただけます。

B みなとみらい21の魅力アップとは？
 みなとみらい21地区では、街を訪れる人、街で働く人など全てに優しい街づくりが進められています。そこで、訪れてみたくなる街「みなとみらい21」をさらに魅力アップするために、一息つける場所としてどのよう憩いの空間が必要か等々、みんなが集える快適空間の街とする方法について検討していただきます。

C 人にやさしい歩行空間とは？
 関内・新横浜などの都心や鶴見駅などの副都心を中心に、街の回遊性の向上を図るため、「人にやさしい歩行空間ネットワークの整備」事業を進めていきます。そこで、誰もが安全で快適に移動でき、人への優しさや安らぎに配慮した「人にやさしい歩行空間」とはどのようなものか検討していただきます。

4 活動内容

- ◆期間：委嘱日から平成15年3月31日まで
- ◆活動日：主に平日の昼間（一時託児あり）
- ◆活動援助費：年間3万円以内（交通費含）

◆活動内容：6月活動説明会／7月学習会（会議の進め方などについての学習。1回2時間を2回程度）／8～2月テーマ毎のグループ別検討会（グループにより異なるが月1、2回2時間程度）／1月末グループ別提案書提出／3月まちづくり交流会（提案の内容発表）

5 応募方法

区役所広報相談係や女性フォーラム、地区センター等にあるリーフレットに応募テーマ、応募理由、検討したい内容をご記入の上、お送り下さい。

6 応募期間：4月26日必着

7 応募結果：6月に全員に郵送にて通知

平成11年度女性の目で見たまちづくりアドバイザーグループ提案の市政への反映状況

提案概要	反映状況
<p>A よこはまの森を守り育てるためにみんなで出来ること [すべての人が楽しめるために]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「市民の森デー」など関心を高める日の設定・学校教育への市民の森の活用・市民の森の環境整備・緑の相談所を中心としたインターネット等の情報交流 [森を守り続けるために] ●「市民の森基金」設立・市民の森について勉強、検討する場の提供・市民、行政、森の所有者が連携して活動する組織作り 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民の森など樹林地を小中学校の総合学習の時間に活用できる方法について、職員によるプロジェクトや教育委員会との共同の検討会により検討を進めています。平成12年度には調査を行いました。 ●インターネットホームページ「横浜の緑」の内容を充実させました。 ●緑区新治市民の森では、地域住民と森の所有者による愛護会を結成し、森の管理活動を行っています。
<p>B 今のままで良いですか？家庭ごみの排出方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ごみ減量のため、家庭ごみの収集回数を週1回に減らす。 ●資源の再利用化のため、透明びんと色付きびんの分別収集 ●区役所に「ごみ110番」窓口の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ●「ごみの出し方パンフレット」を平成13年3月に各戸配布し、リサイクルなどごみの出し方マナーについて周知徹底を図りました。 ●ガラスびんの資源化を進めるため、平成12年度から道路路盤材などその他用途への利用割合を高めました。 ●従来、各事務所で行っていた粗大ごみの収集受付業務を平成13年1月にセンター化し、各事務所へのごみに関するご相談等の電話をつながりやすくなりました。また、13年度には青葉事務所を開設し、各区1事務所となりました。
<p>C 我が家の子育てここがポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ●共生（互いを共に認め生きる）教育の拡充 ●居場所づくりと人材育成・行政情報の一元化 ●行政の子育て支援、子ども関連、教育に関する苦情を受ける調整委員会の設立 	<ul style="list-style-type: none"> ●ゆめはま教育プランに基づいて、人権教育や男女平等教育などの共生の教育を推進しています。 ●放課後や学校休業日における子どもの安全な遊び場所としてのまっ子ふれあいスクールの開設を進めるなど、「まち」とともに歩む学校づくりを推進しています。
<p>D 「水道検針のお知らせ」をわかりやすくするには？</p> <ul style="list-style-type: none"> ●全体を大きくし、必要な文字の強調、罫線を入れるなど見やすくするための工夫 ●漏水の早期発見のための前年同時期の水量の表示 ●緊急時用の連絡先を明記 ●裏面も読んでもらえるような工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ●平成12年3月から、用紙全体を大きくし、必要な文字の強調や罫線を入れました。 ●前年同期の水量の表示を行うとともに「通信欄」を広くして、緊急時用の連絡先等のコメントを明記するとともに、「裏面もご覧下さい」という朱文字を印字して、裏面も読んでもらえるように工夫しました。

フォーラム通信 2002年4月号
 編集・発行(既)横浜市対協会

あした

通信

NO. 185

今月の主な記事

全国連協総会開催 新役員からのメッセージ	8~9
事例紹介 安全で安心できる地域社会づくり	3~4
地域からのたより 小野ひさえさん(大分県) ワールドカップの飲料容器に提言	7
協会からのお知らせ ふるさとづくり全国フォーラム開催に向けて	12

KEIRIN 00 競輪補助事業

世代ごとの視点で安全マップづくり 春日井安全・安心まちづくり女性フォーラム実行委員会 愛知・春日井市

安全で安心して暮らせるまちづくりを進めている愛知県春日井市の「春日井安全・安心まちづくり女性フォーラム実行委員会」(委員長・渡辺修子さん)は、モデル地区での安全マップづくりを皮切りに、2年かけて市内37小学校区で防犯、防災、交通事故防止に関する安全マップづくりを実施、その結果を5冊のイラストマップ集にまとめて市に提出。市はそれをもとに小学校区ごとの「安全・安心マップ」を作り、市民に配布する計画だ。さらに女性フォーラムは、これまでの取り組みを生かして、今年は小学校の総合学習で交通安全や防犯について授業を行う。

車に「ひやり」とした場所はどこ？

女性フォーラムは、まちづくりに女性の視点を活かそうと、平成10年に発足。「みち」をテーマに交通安全、防犯、防災、環境の4部会が独自に調査、研究を続けてきた。平成12年5月に4つの部会が合同で、モデル地区の市民の協力を仰ぎながら住民参加のマップづくりを実施した。まさに市民の市民による市民のための安全マップづくり

である。参加者はこの作業を通して、地域の危険箇所や問題箇所を改めて知る機会となった。

モデル地区にしたのは白山小学校区(世帯数2,361)。安全マップづくりは世代別の視点や経験を考へて小学校児童、婦人会、町内会、老人会の協力を得た。それぞれの団体に「交通安全」「生活安全」「防災」「環境」の観点から「ひやり地図」「生活安全マップ」「防災おたすけマップ」「環境マップ」の作成に参加してもらい、チェック項目ごとに色分けしたシールを地図に貼ってもらった。

例えば「ひやり地図」では自動車や自転車、歩



▲通学路を子どもたちと一緒に点検

行者にひやりとした場所、路上駐車や放置自転車の多い場所などをマークした。「生活安全マップ」は、暗くて危険な場所、ひったく

サントリーに
お声をかけてください。
お気軽にどうぞ…!



洋酒やビール、ワイン、清酒飲料のことなら、
どんなに質問にもわかりやすくお答えします。

サントリーお客様相談室

フリーダイヤル
0120-139310

東京 〒107-8430 東京都港区元赤坂1-2-3 大阪 〒530-8203 大阪市北区堂島浜2-1-40
受付時間 午前9時～午後5時(土、日、祝は除く)

<発行>財団法人 あしたの日本を創る協会
〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-3 市政会館
電話：03(3501)8001(代表) FAX：03(3501)8004
URL：http://www.ashita.or.jp E-Mail：koho@ashita.or.jp

りやチカンに遇った場所、空き巣に入られた家、空き家、ホッとする場所などにシールを貼った。

「防災おたすけマップ」は自宅から避難場所までの避難路を地図に記入し、避難路で危険と思われる場所を印した。「環境マップ」はお花がきれいな場所、ポイ捨ての多い場所、ごみをきちんと分別している場所、ごみが乱雑に出されている場所を地図に印してもらった。

こうして世代ごとに4種類の地図を作った。

危険箇所が地図上に集約

できあがった地図をみると、町内会からは「路上駐車が多く危険である」という意見が多く、児童も「通学路に路上駐車が多い」という結果だった。交差点では、児童は車にひやりとし、町内会の大人は歩行者にひやりとしたことが多い。

暗くて危険な場所は、公園の周辺、水田沿いの道、川沿いと、見通しの悪い公園があがった。「ひったくりに遇った場所」は公園、地下道周辺、県道沿いに印しが多く、人通りの多いところでも時間を問わず発生している。「チカンに遇った場所」は公園が多く、被害者は小学校4年生までの子どもが多い。

「空き巣に入られた家」は道路から塀や樹木で見えにくい家が軒並み被害に遇っている。「空き家」は古い集合住宅に多い。「ホッとする場所」はほとんどの人が自宅と答えた。避難路は狭いうえにブロック塀も見られ、自動販売機もある。「ポイ捨ての多い場所」は国道や地下道だった。

こうしてできた安全マップを女性フォーラムで1枚のイラストマップ(A3判)にまとめ各家庭に配布してもらった。

「地下道美術館」を提案

安全マップづくりを通していろんな問題点が浮かんできた。交通関係では、国道と県道の交差点が危険であること。国道の地下道が利用されていないこと。路上駐車が多いこと。通学路を児童と一緒に点検したところ、通学路と通学班の集合場所に危険なところがあることも分かった。

防犯面では、地下道が危険であること。「こども110番の家」がどこにあるのか知られていないことも分かった。防災面では避難路の安全性と避難路の標識がないこと。環境面では国道や地下道にごみが多いことだった。

そこで女性フォーラムでは問題の多い地下道を見直すことにした。白山小学校区には地下道が4本あるが、危険を感じながらも児童はこれを利用しないで、交差点を横断している。メンバーは地下道を利



作業で広がる地域の輪

用することで危険性は減らせると考え、通学路として地下道を安心して利用するためにはどのような地下道が良いのかを考えた。

そのために市内のほかの地下道を調査してみた。すると明るくて、きれいで、人通りが多く安心できる地下道は交通安全に役立ち、通学路にも利用されていることが分かった。

とりわけ通学路として利用している地下道では、児童を安全に通学させるために、出入り口に交通当番が立ち、きれいな地下道を維持するために児童が清掃を行い、壁面に絵が描かれるなどの取り組みがみられた。

そこで白山小学校に、児童の交通安全の観点と児童の横断で交通渋滞を招いていることから、登校時だけでも地下道を利用することを勧め、地下道を明るくするために地下道美術館を提案した。

ハニワがほほえむ避難路に

女性フォーラムの提案が受け入れられ、児童たちが壁画を描き、地下道を清掃し、地下道の入り口に交通当番が立つようになった。地域の婦人会や老人会も地下道を清掃するようになった。

危険性のある通学路や集合場所の見直しも図られている。こども110番の家についてもPTA新聞で取り上げPRしてくれた。

地元でも安全なまちづくりの取り組みが見られるようになった。めいわく駐車防止キャンペーンが行われ、「ハニワがほほえむ避難路」もお目見えした。女性フォーラムが、避難路の目印となる道標の設置を地元に提案し、それに応えて、白山校区コミュニティが避難路にハニワを設置してくれた。同校区には史跡「二子山古墳」をはじめとする古墳が点在し、ハニワは地元のシンボル。ハニワづくりに女性フォーラムのメンバーも参加した。

さらに女性フォーラムでは、今年は小学校の総合学習で「自分の命は自分で守る」をテーマに授業を行う。今、メンバーはその準備に追われ、紙芝居と寸劇の稽古に余念がない。

(事務局・峯)

「安全・安心まちづくり女性フォーラム」テーマ別活動

取り組み地域	主な活動・議論の内容
水 害 仙台、水戸、川口、 建築士会、UIFA、 東久留米、足立、湘 南、新井、金沢、神 戸、大阪、姫路、 岡山、京葉、福岡、 長崎、自治体防	水 害 80年度、各地で集中豪雨等による水害がひんぱん。特に浸水中心被害の大きかった新潟、高知、水戸で、防災を中心テーマに取り上げ、実際の体験にもとづいて事例発表、被災時の心得、地域の特性を知るなどの重要性などが議論された。その他の地域でも、防災グッズの展示、配布や過去の災害状況の写真パネルの展示による写真活動などが行われた。
地震・都市大火 阪神地域を中心各地域で阪神・淡路大震災の教訓にもとづく市民主体のまちづくりの取組が議論された。被災地域では、被災地地域の復興に力を入れた様々な市民のまちづくり活動が紹介された。川口では、被災後のまちづくり活動の中心となった活動した方の体験談を対談により引き出した。	地震・都市大火 阪神地域を中心各地域で阪神・淡路大震災の教訓にもとづく市民主体のまちづくりの取組が議論された。被災地域では、被災地地域の復興に力を入れた様々な市民のまちづくり活動が紹介された。川口では、被災後のまちづくり活動の中心となった活動した方の体験談を対談により引き出した。
環 道 湘南地域では、海辺という地域の特性から、津波等への対応が議論された。自分の住んでいる地域の特性を認識することが大切であることが議論された。	環 道 湘南地域では、海辺という地域の特性から、津波等への対応が議論された。自分の住んでいる地域の特性を認識することが大切であることが議論された。
原子力施設 水戸では県東部に原子力関係施設が多いことから活動の一環として日本原子力発電所等への見学研修を行った。	原子力施設 水戸では県東部に原子力関係施設が多いことから活動の一環として日本原子力発電所等への見学研修を行った。
防犯・犯罪 仙台、水戸、横浜、 新潟、金沢、春日井、 阪神、姫路、高知、 福岡	防犯をテーマの柱の1つに据えていたのは横浜、春日井、新潟、新潟、新潟、新潟の分科会等のテーマとして防犯とあり、日ごろの地域のコミュニティの重要性や、犯罪被害者への対応などについて議論された。各地域ともパネリストがカクシヨウのボランティアに積極的に参加していることを報告し、警察との連携や地域の協力を取り戻す重要性が語られた。
育児子育て 仙台、横浜、阪神、 姫路、福岡、長崎、 湘南	育児をテーマの柱のひとつとしたのは、浜市防衛と横浜など。分科会のテーマにとりあげ、まち歩きをしながら、子供とともにカルタをつくったり、まちづくりや子育ての悩みを自問を、またその表現をみかたに表現した。横浜市内のパネリストに子育てサークルの元リーダーを迎え、子育てストレスの解消のための重要性などを議論した。
高齢者・障害者 徳島・小樽、仙台、 水戸、建築士会、U I F A、東久留米、 横浜、金沢、阪神、 姫路、高知、福岡、 長崎	東久留米市では、高齢者及び障害者に対するパリアフリーについて、日本社会事業大学の連携公開講座の中で、障害者をもつた専門家をめぐる多様な活動や、高齢者や障害者への取組発表を実施し、互に活動の紹介を行った。その中でいるのは、パリアフリーについて発表された建築士会では、高齢者や障害者の取組と題して、長崎県民会館で福祉、ケア付き仮設住宅の発表をされた。老人ホームの経営者も参加し、実際の経験からの発表に活発な議論が展開された。その他の各地域の活動の中で、ワークショップや分科会、パネリストセッションなどテーマとして取りあげられた。
環境意識 環境、長崎は、各地域でワークショップのテーマなどで取りあげられた。特に長崎県では、分科会の柱としてハウステンボスの環境共生の取組を報告、議論した。ハウステンボスの環境共生システムは、専門家に知られたシステムだが近隣の住民にはあまり知られていなかったこともあり住民を招いた。	環境意識 環境、長崎は、各地域でワークショップのテーマなどで取りあげられた。特に長崎県では、分科会の柱としてハウステンボスの環境共生の取組を報告、議論した。ハウステンボスの環境共生システムは、専門家に知られたシステムだが近隣の住民にはあまり知られていなかったこともあり住民を招いた。
その他 その他各地域の地域特性に応じたテーマに取り組んでいる。特色あるのは、徳島・小樽における「観光」、福岡版の「健康と福祉」など。各地域で、各テーマについてコミュニティの大切さがあらためて議論された。その内容は、阪神・淡路大震災における教訓として自己責任はもとより、犯罪に対する抑止、子育てや高齢化、福祉におけるネットワークの重要性など。	その他 その他各地域の地域特性に応じたテーマに取り組んでいる。特色あるのは、徳島・小樽における「観光」、福岡版の「健康と福祉」など。各地域で、各テーマについてコミュニティの大切さがあらためて議論された。その内容は、阪神・淡路大震災における教訓として自己責任はもとより、犯罪に対する抑止、子育てや高齢化、福祉におけるネットワークの重要性など。

安全・安心まちづくり女性フォーラム

相次いだ事故・事件

安全・安心まちづくり女性フォーラムが発表した九七年からの三年間、日本列島は立て続けに自然災害に見舞われ、二十万を超える死者が出た。大規模な地震、大規模な水害、大規模な火災、大規模な台風被害、大規模な交通事故、大規模な犯罪被害など、大規模な被害が相次いで発生した。この自然災害の発生は、日本経済が高度成長期に突入し、八〇年代後半から九〇年代前半にかけての間に発生した。この間に発生した大規模な自然災害は、大規模な被害をもたらした。この間に発生した大規模な自然災害は、大規模な被害をもたらした。

「都市の危機」克服へ知恵

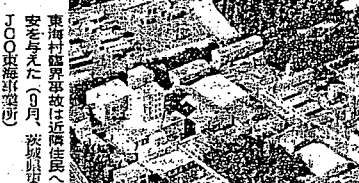
大都市に集中した大規模な自然災害は、大規模な被害をもたらした。この間に発生した大規模な自然災害は、大規模な被害をもたらした。この間に発生した大規模な自然災害は、大規模な被害をもたらした。この間に発生した大規模な自然災害は、大規模な被害をもたらした。

「事故災害」

大規模な事故災害は、大規模な被害をもたらした。この間に発生した大規模な事故災害は、大規模な被害をもたらした。この間に発生した大規模な事故災害は、大規模な被害をもたらした。この間に発生した大規模な事故災害は、大規模な被害をもたらした。

「事件災害」

大規模な事件災害は、大規模な被害をもたらした。この間に発生した大規模な事件災害は、大規模な被害をもたらした。この間に発生した大規模な事件災害は、大規模な被害をもたらした。この間に発生した大規模な事件災害は、大規模な被害をもたらした。



今年は大倉川事故など、大きな水害が相次いだ(8月、神奈川県川崎市)。

災害の教訓生かして



東京でイベント開催

安全・安心まちづくり女性フォーラムの開催が、東京で実施された。このイベントでは、各地域の活動を紹介し、互に活動の紹介を行った。その中でいるのは、パリアフリーについて発表された建築士会では、高齢者や障害者の取組と題して、長崎県民会館で福祉、ケア付き仮設住宅の発表をされた。老人ホームの経営者も参加し、実際の経験からの発表に活発な議論が展開された。その他の各地域の活動の中で、ワークショップや分科会、パネリストセッションなどテーマとして取りあげられた。

街作りの課題寸劇で訴え

このイベントでは、各地域の活動を紹介し、互に活動の紹介を行った。その中でいるのは、パリアフリーについて発表された建築士会では、高齢者や障害者の取組と題して、長崎県民会館で福祉、ケア付き仮設住宅の発表をされた。老人ホームの経営者も参加し、実際の経験からの発表に活発な議論が展開された。その他の各地域の活動の中で、ワークショップや分科会、パネリストセッションなどテーマとして取りあげられた。

「子育て」

子育てをテーマの柱のひとつとしたのは、浜市防衛と横浜など。分科会のテーマにとりあげ、まち歩きをしながら、子供とともにカルタをつくったり、まちづくりや子育ての悩みを自問を、またその表現をみかたに表現した。横浜市内のパネリストに子育てサークルの元リーダーを迎え、子育てストレスの解消のための重要性などを議論した。

「高齢者・障害者」

東久留米市では、高齢者及び障害者に対するパリアフリーについて、日本社会事業大学の連携公開講座の中で、障害者をもつた専門家をめぐる多様な活動や、高齢者や障害者への取組発表を実施し、互に活動の紹介を行った。その中でいるのは、パリアフリーについて発表された建築士会では、高齢者や障害者の取組と題して、長崎県民会館で福祉、ケア付き仮設住宅の発表をされた。老人ホームの経営者も参加し、実際の経験からの発表に活発な議論が展開された。その他の各地域の活動の中で、ワークショップや分科会、パネリストセッションなどテーマとして取りあげられた。

「環境意識」

環境、長崎は、各地域でワークショップのテーマなどで取りあげられた。特に長崎県では、分科会の柱としてハウステンボスの環境共生の取組を報告、議論した。ハウステンボスの環境共生システムは、専門家に知られたシステムだが近隣の住民にはあまり知られていなかったこともあり住民を招いた。

「留守番中の子供には、客が来て居留守を使わせた方がいいのでしょうか。子供に安全に関する情報を、インターネット上で提供する民間組織「子どもの危険回避研究所」(東京都港区)には、小中学生の親たちから、こんな相談がよく寄せられる。

所長の横矢真理さん(42)

は中高生二人の母親。自らの子育て体験を同じ不安を抱える母親らに伝えようと、三年前、研究所を開設した。女性スタッフとともに、犯罪や事故などから子供を守る情報やノウハウを収集、提供し、相談にも応じる。「昨年の池田小学校事件のあと、痴漢、暴行、誘拐など、子供を狙う犯罪に対する親の不安が急速に強く、しかも具体的にになってきた」と横矢さんは言う。

例えば、留守番中の見知らぬ来客や電話への対応ひとつとっても、親には頭の痛い問

題だ。子供が応対に出て、大出版した。年内には、子供向けの人がないことが分れば危険だし、かといって、居留守を使えば誰もいないと思われ、カギを壊して侵入されるかもしれない。友達があれば、カギをかけるのも忘れて遊びに

安全に暮らす

⑥

時、防犯灯のボタンを押すと、ベルが鳴って赤色回転灯、カメラが作動する。映像が警察署に送られ、インターホンでのやりとりもできる。

街頭犯罪抑止のため、警察庁などが全国で整備を進めているが、大阪府は子供を守る観点から、独自に「上乗せ設置」することにした。今年度

中に五警察署管内の通学路や公園に設ける予定だ。

愛知県春日井市では、母親らの住民グループが「安心・安全マップ」を作った。

市内三十八の小学校区ごとに、母親と子供たちが地域をくまなく歩き、暗い場所、空き巣被書に遭った住宅、交通事故の多い地点……などをチェックして地図に記入。その結果が、三十八枚の安全地図になった。同市が印刷し、近く各家庭に配布する。

子供の安全を守る試みが、各所で動き始めているようだ。横矢さんは「大切なのは、子供を危険のない場所に隔離することではなく、子供自身の危険回避能力を高めるために大人がサポート役になること。身の回りの危険についての親子の対話や教育が必要」と話している。

第6集おわり

ピズム 現代

第6集



防犯ブザーなど防犯用品を比較検討する「子どもの危険回避研究所」のスタッフ(東京都港区)

子供を危険から守る

H13. 6/15 (金)

北陸中日新聞 <24面>

いしかわ総合

地域のニュース
茶の間の話題

購読のお申し込みは ☎ 0120-22-0697

女性の起業支援のアイデア募集が掲載されている雑誌を手に「ユニークな案を待っています」と呼び掛ける羽咋市教委職員一同市で

商店街救うさん新アイデアもっと

求△女性起業家

衰退気味の商店街を女性パワーで活性化―女性の起業支援策を打ち出した羽咋市は、雑誌を通して市街地の空き店舗に出店すべき業種についてアイデアを公募している。その結果、これまでに一都二府十二県から三十五件が寄せられた。大半は飲食店関係。県内からの応募が予想より少なく、さん新たなアイデアを今月末まで募集している。

羽咋市の
空き店舗活用

月末までに50案期待

公募は五月から開始し、まわってほしい。羽咋から三十五件のうち約八割が、定食屋、弁当屋、待っています」と呼び掛パン屋といった飲食店関係。同支援事業は、五月九日に発売された「公募ガイド」(公募ガイド社)の六月号に「女。女性パワー」をて

ネスのアイデア募集」とりを実現していきたいとして掲載。最優秀賞(一)に賞金五万円、優秀賞(二)には各三万円を贈る。審査結果は七月下旬に入賞者に通知する。応募先は、羽咋市鶴多町免田

担当の同市教委では、二五、コスモアイル羽咋「県内からの応募は、今内、同市教委生涯学習課のところに野々市町からの「女性の仕事アイデア」一件だけ。県内の人から、問い合わせは「電話も積極的に応募してもらい、最低でも五十件は集

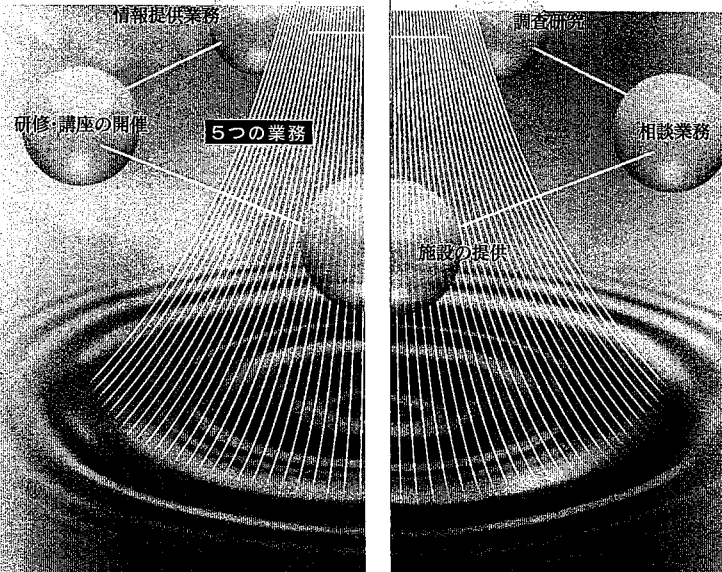
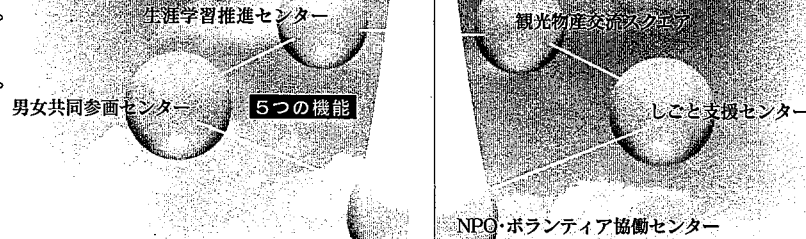


くまもと県民交流館パレアは、 県民のみなさんの活動を応援する総合拠点施設です。

パレアは、NPO・ボランティア活動、男女共同参画社会づくりに関する活動、生涯学習活動、就業支援など、県民の皆さんの自発的で主体的な様々な活動を応援する拠点施設です。

パレアには、大小の会議室や和室、音楽室等の有料で貸し出しをする施設や、NPO・ボランティア、男女共同参画社会をめざす団体の活動拠点としてのパレールームや情報ライブラリーなど無料で利用できる施設も備えています。この他パレアでは、上記の様々な機能に沿った自主事業を当施設で実施すると共に情報提供や相談業務なども行うこととしております。なお、テトリア熊本1階には観光物産交流スクエアを開設しています。

パレアの由来
「パレア」は、「つきあい、交際、仲間」を意味するギリシャ語で、心の交流があり、誰もが仲良く利用できる施設をイメージしたネーミングです。



事業概要

●NPO・ボランティア協働センター

特定非営利活動促進法(NPO法)認証事務を行うほか、NPOやボランティアと行政の協働による、様々な活動の実現を目指します。

○情報収集・発信

- インターネット、情報誌、ポスター、チラシ、パンフなどによるNPO・ボランティア関連情報の発信。
- 各種セミナー、交流会、講演会などの開催
- NPOやボランティア活動に関する各種セミナー、交流会、講演会などの開催。

●熊本県男女共同参画センター

男女共同参画社会づくりのための拠点施設として、男女共同参画に関する啓発、情報収集・提供、人材育成、相談、調査研究、活動交流支援の各種事業を行います。

○啓発

男女共同参画についての普及、意識啓発のための講演会の開催、啓発パンフの作成など。

○人材育成

主に女性のエンパワーメント(能力向上)のための講座や地域で活躍する人材育成のための研修の実施。

●しごと支援センター

これまで、鶴屋8階にあった女性のための就職相談窓口ウイミングが移転、男性も対象とした新たな施設となりました。ここでは、国の熊本パートバンクと一体となって、県民の皆さんに、就業に関する様々な情報提供を行います。また、育児や介護などを理由に退職した方で再就業を希望する方や、就業経験のない方などで雇用保険受給の対象とならない方(以下「事業対象者」という。)に対しては、就業に関する相談・助言及び能力開発や資格取得のための技術講習を実施します。

○技術講習

就業を希望する事業対象者に対して、必要な技術や資格を身につけ、より有利な条件で就業できるよう、技術講習を行います。(経理中級、パソコン、ビジネス実務、老人介護など)

●生涯学習推進センター

県民カレッジの運営をはじめ生涯学習の情報提供、学習相談などを行います。また、視聴覚教材の貸出なども行います。

○県民カレッジ

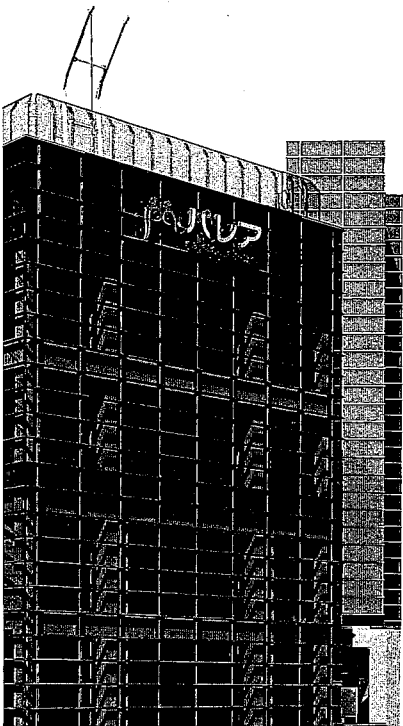
- ①主催講座(センターが企画・運営する講座)
- ②連携講座(センター以外の機関が企画・運営する講座)
- ③公開講座(センターが企画・運営する講演会など)

●観光物産交流スクエア

県下各地の観光情報の発信、特産品の紹介、産業展示などを行う方々に有料で提供するスペースです。観光客の誘致の他、アンテナショップとして、新製品の紹介として利用できます。また、「ゆっくりと県産茶が飲めるやすらぎの空間」を提供します。詳細は、社団法人熊本県物産振興協会にお問い合わせください。

業務概要

- 【所在地】
熊本市手取本町8番9号
テトリア熊本ビル9階・10階・1階(一部)
専用郵便番号860-8554
- 【施設総面積】
9階・10階/4816.75㎡
1階/206.61㎡
- 【閉館日】
年末年始(12月29日～1月3日)
不定期(月1日程度メンテナンス休館あり)
- 【開館時間】
9:00～21:00



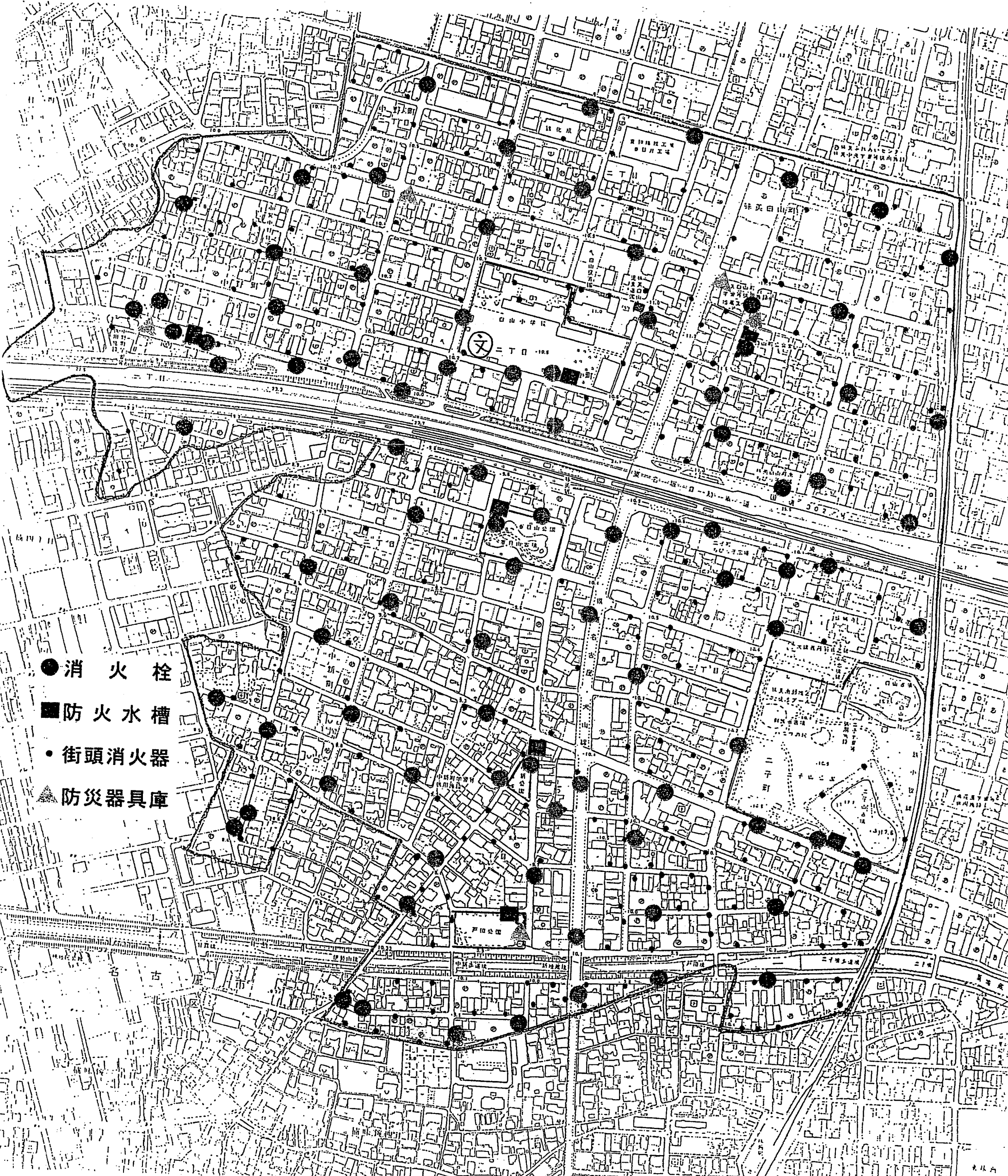


白山小学校区 安全マップ

街頭消火器等防災設備配置図

がいとしょうかき

ぼうさいせつびはいちす

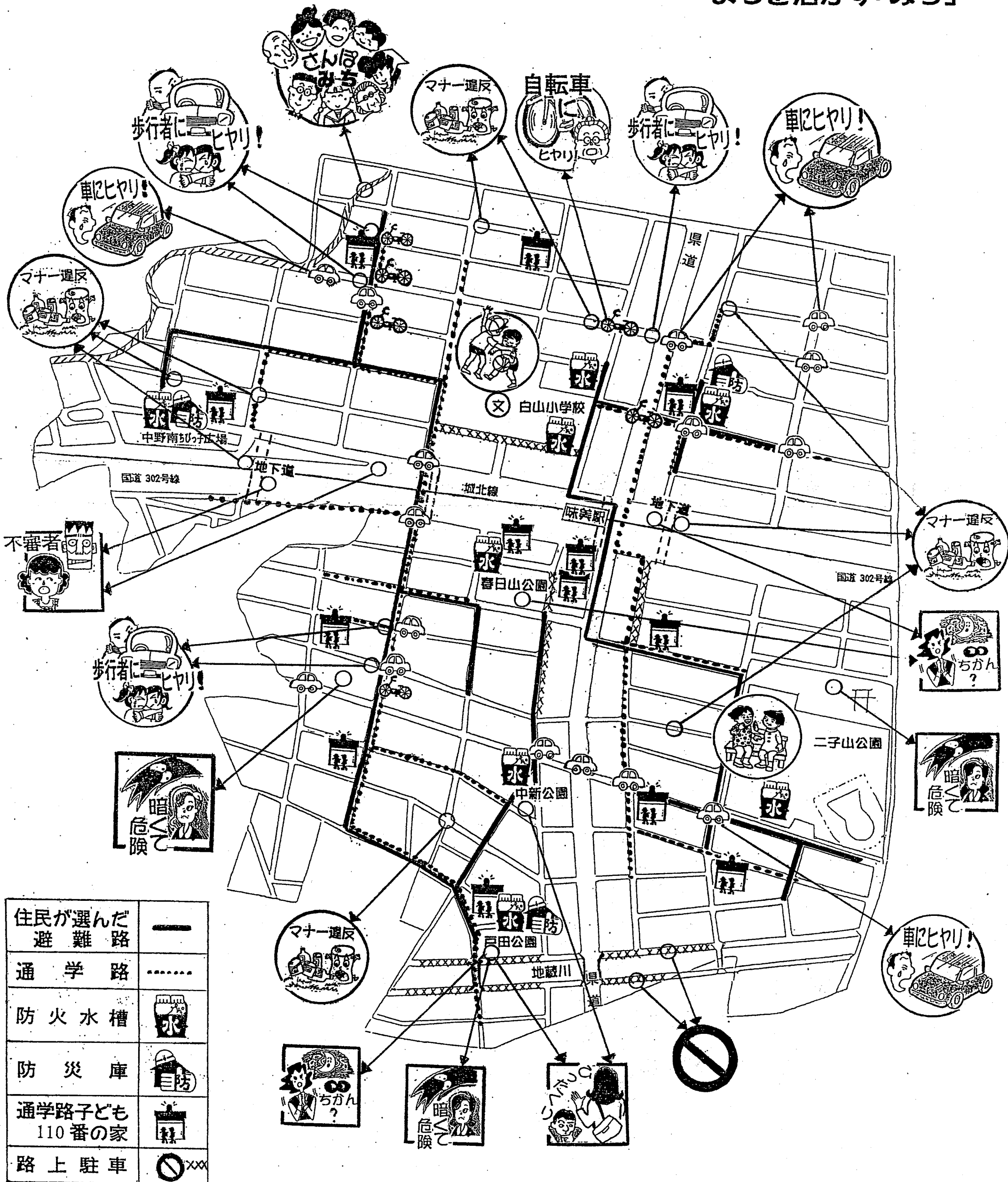


- 消火栓
- 防火水槽
- 街頭消火器
- ▲ 防災器具庫

白山小学校区

安全マップ

—みんなで考えよう まちを活かす「みち」—



平成14年 12月 18日

警察署協議会について

1. 設置の趣旨

警察署協議会は、警察署長が、警察署の業務運営に民意を反映させるため、その在り方について住民等の意見を聴くための機関である。また、警察署協議会は、警察署長が警察署の業務運営について、住民等に説明し、その理解と協力を求める場でもある。

平成12年7月に警察刷新会議が国家公安委員会に提出した「警察刷新に関する緊急提言」を受けて、平成12年11月の警察法改正で設けられた同法第53条の2の規定により、警察署協議会を設置することが定められ、平成13年6月1日に施行された。平成14年6月1日現在、全国1,269警察署中、1,265警察署に設置されている。

2. 警察署協議会の開催状況

平均開催回数 2.0回

平均開催時間 113.6分

平均出席率 89.8%

1協議会あたりの委員数 8.7人

3. 警察署協議会委員の男女比(平成14年6月1日現在)

総委員数 11,014人

男性 8,156人(74.1%)

女性 2,858人(25.9%)

【警察刷新に関する緊急提言】[抜粋](平成 12 年 7 月)

第 8 住民の意見を警察行政に

警察は、犯罪予防、関係機関との連携、犯罪被害者支援方策等に関して、住民の生の声を十分に理解しなければならず、また、その活動は住民により支持、協力がなされねばならない。そのため、概ね警察署ごとに、保護司会、弁護士会、自治体、学校、町内会、NPO、女性団体、被害者団体等の関係者などの地域における有識者からなる警察署評議会(仮称)を設置し、警察と住民間で共通の問題意識を持ち、警察が住民の声に基づいて行動するような仕組みが確立されねばならない。

(注)英国においては、1980 年代初頭以降、人種問題を背景として頻発した騒擾事件への反省から、少数民族や社会的弱者を含む地域住民の多様な声を直接吸い上げるため、「警察と地域の協議会(PCCG: Police/Community Consultative Group)」が設けられた。

【関連法令】

○警察法(抄)[警察署協議会](平成12年12月6日公布)

第五十三条の二

- 1.警察署に、警察署協議会を置くものとする。ただし、管轄区域内の人口が僅少であることその他特別の事情がある場合は、これを置かないことができる。
- 2.警察署協議会は、警察署の管轄区域内における警察の事務の処理に関し、警察署長の諮問に応ずるとともに、警察署長に対して意見を述べる機関とする。
- 3.警察署協議会の委員は、都道府県公安委員会が委嘱する。
- 4.警察署協議会の設置、その委員の定数、任期その他警察署協議会に関し必要な事項は、条例(警察署協議会の議事の手続にあつては、都道府県公安委員会規則)で定める。

【課長発言追加事項】

1. 地域住民の要望・意見の警察署運営への反映状況

- 住民の生の声を積極的に警察署の業務運営に取り組んだ例
 - ・ 警察署独自に取り組んだ例
交番に警察官が不在の際、来訪者が書類を提出できるようにポストを設置
繁華街の違法駐車対策の実施
 - ・ 自治体等の協力を得て問題の解決に取り組んだ例
街灯設置
ピンクビラの排除
- 警察署の業務運営について住民の理解と協力の得られた例
 - ・ 少年非行防止のための地元PTAとの共同パトロールの実施
 - ・ 生徒や児童を守るための地域住民との共同パトロール

2. その他

- 女性委員が、所属する女性団体で、自発的に警察に関するアンケートを実施した例
- 女性委員が、警察署署員に対し、応接マナー向上研修会を開始した例

女性のエンパワーメントのための男女共同参画学習促進事業について

1. 事業の概要

本事業は、平成11～13年度に実施され、女性団体・グループが男性とのパートナーシップを図りつつ、男女共同参画の視点から地域社会づくり等に参画する事業を推進することにより、女性のエンパワーメントの促進に資するものである。

実施に当たっては、地域の女性団体・グループ等で構成する実行委員会及び全国的な活動を行っている女性教育関係団体に「男女共同参画基本計画」（平成11、12年度においては、「男女共同参画2000年プラン」）における11の重点目標の中からテーマを設定し、テーマに応じた学習やその成果の普及を図る事業を委嘱して行った。

2. 男性の参加の促進について

本事業の趣旨として、「男性とのパートナーシップを図る」ことが掲げられていることから、実行委員会・団体組織に男性メンバーを加えたり、男性の参加者を増やすための工夫がなされている。

〔事例〕

1. 栃木県（平成11年度実施）

（1）概要

栃木県内の地理、産業構造、人口構成等の異なる4地域が、それぞれの地域の特性を生かした事業を実施し、さらにネットワークを組みながら事業を展開して、男女共同参画社会づくりに向けた啓発・学習活動を効果的に進めるための情報交流活動を行った。

（2）男性の参加について

平日の夜間に経済関係をテーマとした学習会の開催

2. 岐阜県（平成11年度実施）

（1）概要

生涯を通じた女性の健康保持増進対策、女性の健康をおびやかす問題についての対策の推進等を図るための学習、啓発活動を行った。

（2）男性の参加について

実行委員会に男性のメンバーがいたことから、主にPTA関係、男性料理教室等へ協力を呼びかけてもらった。

3. 和歌山県（平成11年度実施）

（1）概要

男女共同参画社会の実現のため、地域的な課題について、「女性の起業支援」「女性のネットワーク支援」「男性の意識改革」をテーマに学習活動を行った。

（2）男性の参加について

「男の生き方再発見セミナー」を実施

4. 日本YWCA（平成11～13年度実施）

（1）概要

「女性に対する暴力」をサポートする人々の養成講座の実施を中核に、実態調査やプログラム開発を行った。

（2）男性の参加について

男性サポーター、男性ファシリテーターの養成講座等を行った。

男性サポーター養成講座終了後、参加した男性が中心となって「男性」研究会を組織し、男性の非暴力学習の可能性やジェンダーに関する学習及びファシリテーター研究などを行い、2年目からの講座の講師やファシリテーターとして活躍。現在も勉強会や情報交換等を行っている。

(参考)

女性のエンパワーメントのための男女共同参画学習促進事業実施要綱

平成13年4月9日
生涯学習政策局長決定

- 1 趣旨
女性団体・グループが男性とのパートナーシップを図りつつ、男女共同参画の視点から地域社会づくり等に参画する事業を推進することにより、女性のエンパワーメントの促進に資する。
- 2 委嘱内容
「男女共同参画基本計画」の中からテーマを設定し、テーマに応じた学習やその成果の普及を図る事業を内容とする。
- 3 委嘱先
本事業は、次の女性団体又はグループ（以下、「団体等」という。）に委嘱する。
 - (1) 地域的な女性団体・グループ（ただし、複数の団体等と連携して実行委員会を組織することを要する。）
 - (2) 全国的規模の女性教育関係団体なお、(1)、(2)のいずれにおいても、男女共同参画の観点から当該団体以外の関係団体・グループの男性が主要メンバーとして参画していることを要する。
- 4 委嘱手続
 - (1) 委嘱を受けようとする団体等（3(1)の団体等は都道府県・政令指定都市教育委員会の推薦が必要。）は、別紙様式1による事業計画書を、文部科学省に提出する。
 - (2) 文部科学省は、上記(1)により提出された事業計画書の内容を勘案し、企画運営委員会の選考を経て内容が適切であると認めた場合、当該団体等に対し、事業を委嘱する。
 - (3) 事業の委嘱を受けた団体等は、当該事業を終了後、別紙様式2による実施報告書を年度内に文部科学省に提出する。
- 5 委嘱期間
本事業の委嘱は年度毎に行うものとし、委嘱期間は委嘱を受けた日から平成14年3月31日までとする。
- 6 経費の支出
 - (1) 文部科学省は、委嘱先に対して、予算の範囲内で事業実施に要する経費を支出する。
 - (2) 文部科学省は、委嘱先が実施要綱等に違反したとき又は委嘱事業の遂行が困難であると認めたときは、委嘱の解除や経費の全部又は一部について返還を命じることができる。
 - (3) 文部科学省は、必要に応じ、事業の実施状況及び経理処理状況について実態調査を行う。
- 7 企画運営委員会
本事業を実施する上で、専門的な指導・助言を得るため、文部科学省に企画運営委員会を置く。
- 8 その他
文部科学省は、必要に応じ事業報告会を行うものとする。
ここに定めるもののほか、本事業の実施に関し必要な事項は別に定める。